

## 津波が発生する恐れがある場合

南海トラフ巨大地震の影響で、津波が発生する恐れがあります。

発生後、最短で 1 時間 50 分後に津波が大阪市に到達するとされています。

また、南海トラフ巨大地震以外の太平洋で起こる地震でも、津波が大阪市内にも到達することもあるため、注意が必要です。

大阪市では津波等の水害から市域を守るために防潮堤を整備していますが、大阪市市域に津波警報・大津波警報が発表された場合は、速やかに避難してください。

西区の中でも木津川より西側の地域では、かなりの浸水被害が予測されています。津波避難施設・津波避難ビル（指定緊急避難場所）の場所等を確認しておいてください。ただし、施設が近くにない場合や時間外で指定施設が閉鎖していて避難できない場合があります。

### ① 津波情報の収集

- ・テレビやラジオで津波情報を確認
  - ・同報系無線（防災スピーカー）で津波情報を確認
- ※ 西区では、小学校の屋上や公園等に 17ヶ所設置しています



### ② 率先避難（避難呼び掛け）

- ・周辺住民に避難を呼び掛け
- ・近くの津波避難施設・津波避難ビル（指定緊急避難場所）へ避難

#### ◆津波避難施設・津波避難ビル（指定緊急避難場所）

・東日本大震災を教訓に、市民の皆さんの安全を守るために津波対策のひとつとして津波避難施設の確保を進めています。

・南海トラフ巨大地震が発生すると大阪市にも津波が来る恐れがあり、津波から身を守るためには少しでも早く高い場所（建物の3階以上）に避難する必要があります。

※西区役所ホームページ等でどこに津波避難施設・津波避難ビル（指定緊急避難場所）があるか確認しておきましょう。



西区役所ホームページ

<http://www.city.osaka.lg.jp/nishi/page/0000478186.html>

### ③浸水エリアを調べておく

・水害ハザードマップで、自分の住んでいる場所がどの程度浸水するおそれがあるのか把握しましょう。

※ 水害ハザードマップは「西区役所 4 階 地域支援課」の窓口に設置しています。

- ・周りより低い場所等、危険な箇所を把握しましょう。
- ・避難場所や避難ルートを確認しましょう。
- ・側溝や排水溝にごみや落ち葉等が溜まっていないか等、家の回りの点検をしておきましょう。

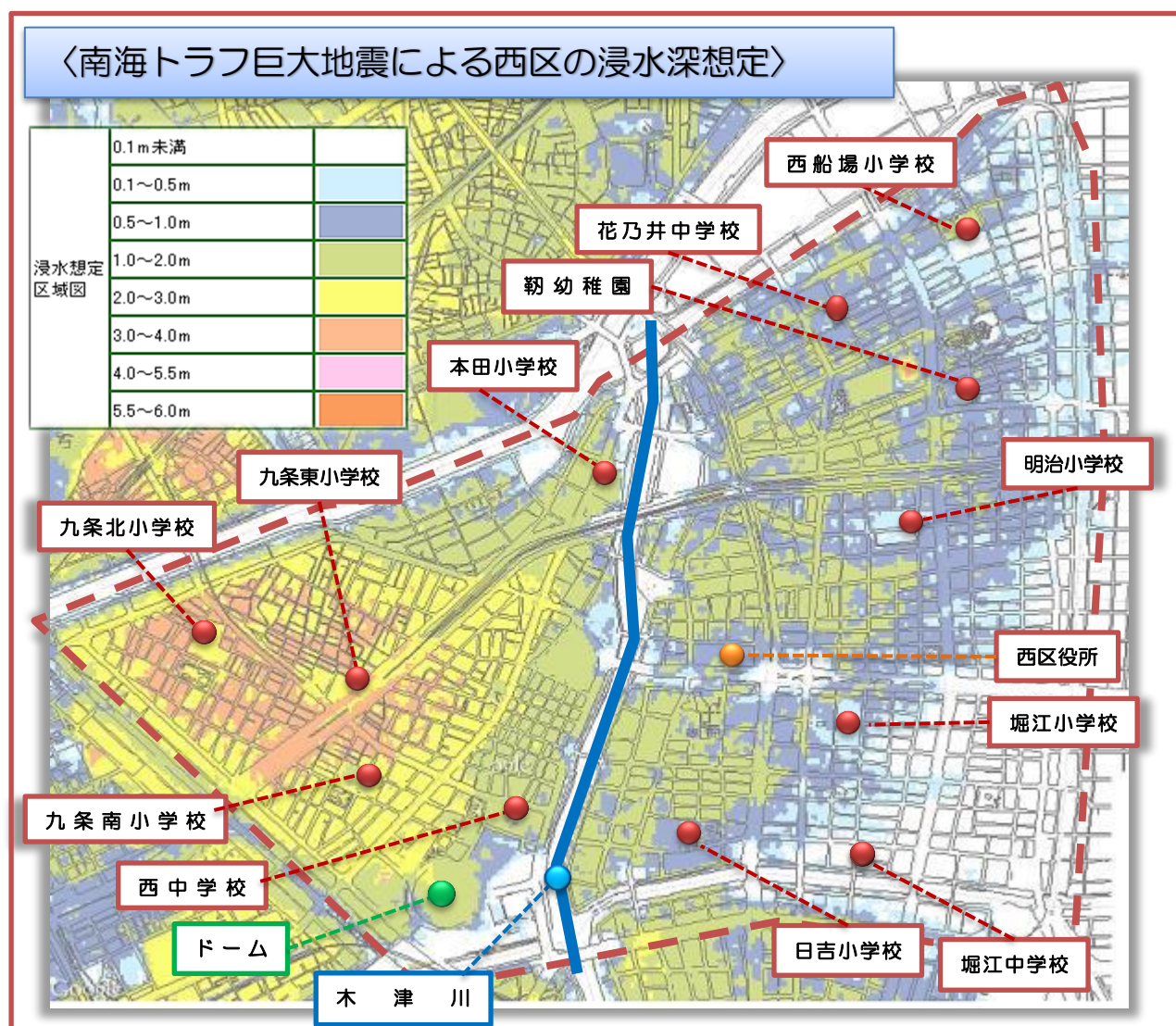
・浸水のおそれのある地域や低い土地に住んでいる方は、土のう等を用意しておきましょう。

・避難経路や自宅周辺の浸水深を把握しておきましょう。



※ 西区役所ホームページ等で自分の住む地域の津波や水害時の浸水想定区域、浸水深を確認しましょう。

<http://www.city.osaka.lg.jp/nishi/page/0000255321.html>



# 浸水深サイン（どうぶつもののさし）

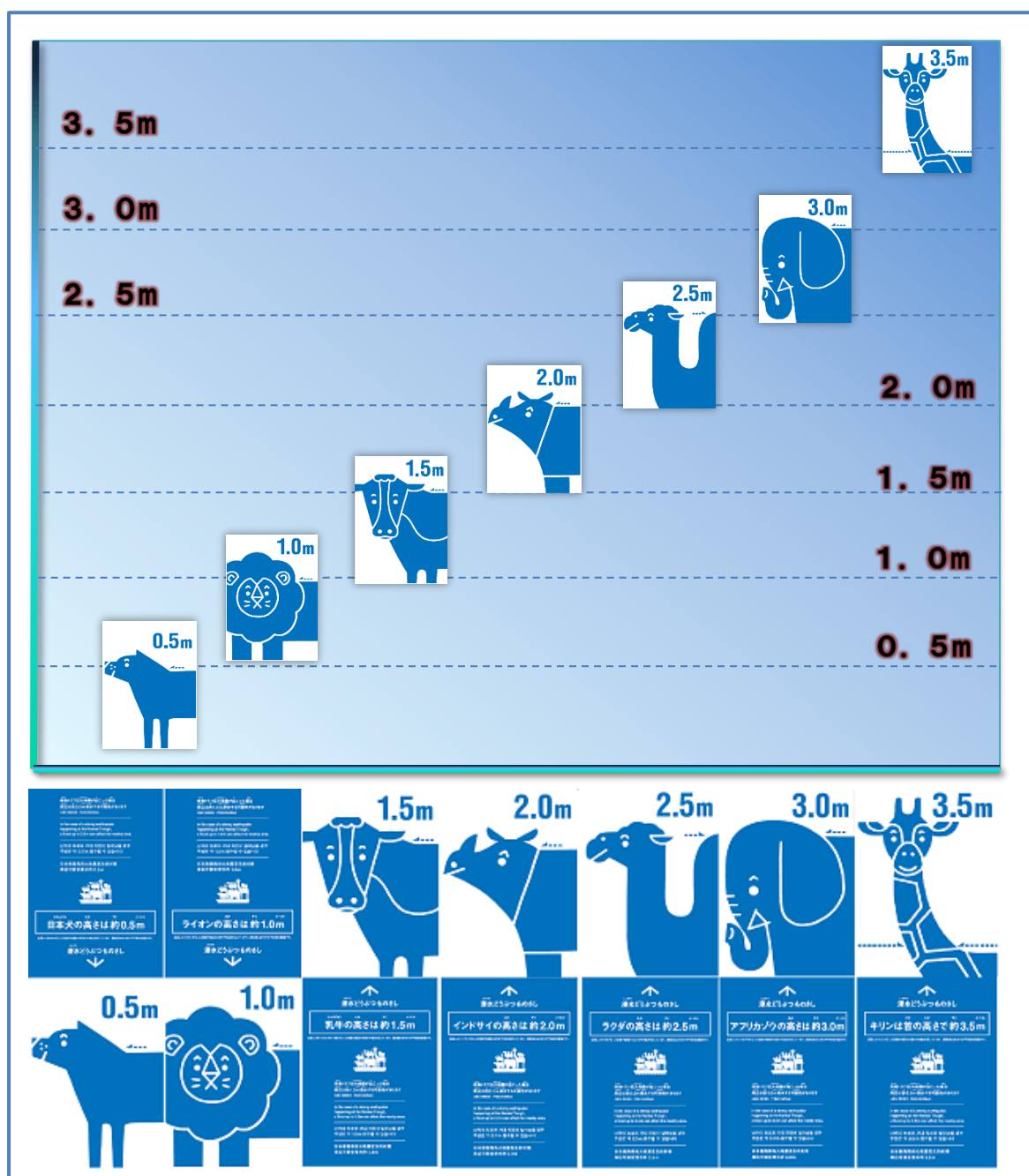
- ・浸水深サイン（どうぶつもののさし）で浸水状況を把握しておきましょう。

西区では、南海トラフ巨大地震の影響で発生する津波の浸水の高さを、動物キャラクターの体高を使って示しています。

西区内で活躍するデザイナーやクリエイターの皆さんが「子どもたちに身近に感じてもらえるものを」という思いから7種類の動物キャラクターとしました。

小中高等学校及び、公共施設等の建物、民間施設等約100箇所を設置しています。

また、平成29年度からは、外国人に対する情報発信の充実を図る観点から、デザインを多言語表記に変更し、設置しています。





## その他風水害時の注意点

### 『むやみに外出しないようにしましょう』

台風が接近しているときや豪雨のときは、外出を控えましょう。

やむを得ず外出する際は、気象情報を確認し、少しでも危険を感じる場所には、近づかないようにしましょう。特に堤防・海辺・河川への見物は事故のもとです。

## 風が強いとき

### 路上にいるとき

強風で瓦や看板が飛んだり、街路樹等が倒れたりすることがあります。

無理して歩かず近くの頑丈な建物に避難しましょう。



### 屋内にいるとき

風圧や飛来物で窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。風が強いときは窓に近づかないようにしましょう。

### 海辺にいるとき

海への転落や高波に巻き込まれる危険があります。また、高潮の恐れもあるので、速やかに海辺から離れましょう。

## 大雨のとき

### 川边にいるとき

上流の豪雨により、川が急に増水する危険があります。川等には近づかないようにしましょう。避難情報が出れば、速やかに建物の3階以上へ避難しましょう。なお、強風や豪雨の時には、同報系無線（防災スピーカー）が聞こえないこともあるので、十分に注意しましょう。

### 車を運転しているとき

視界が悪く、ハンドル操作やブレーキがきかなくなることもありますので、運転は控えましょう。また、アンダーパス等道路冠水の恐れがある場所は通らないようにしましょう。

### 路上にいるとき

浸水してきたら、近くの建物の3階以上へ避難しましょう。また、水路・側溝は水量が増して危険ですので、近づかないようにしましょう。

## 早めに避難しましょう

・「まだ大丈夫」「自分だけは大丈夫」と思い込まず、早めに避難することが命を守るポイントです。

・大阪市から避難情報が出れば、ただちに必要な避難行動をとってください。

## 風水害時に避難するときは

河川冠水の避難勧告のときの避難の考え方

・マンションの3階以上等、浸水のおそれがない階にお住まいの方

⇒自宅の安全な場所で待機し、在宅避難をしましょう。

・1、2階建ての木造住宅やマンションの低層階等浸水のおそれがある階にお住まいの方

⇒事前に気象予報を確認し、安全な親戚・知人宅への避難を検討してください。

それらのできない方は、津波避難施設（指定緊急避難場所）等の近くの高い建物に避難しましょう。

- 河川氾濫

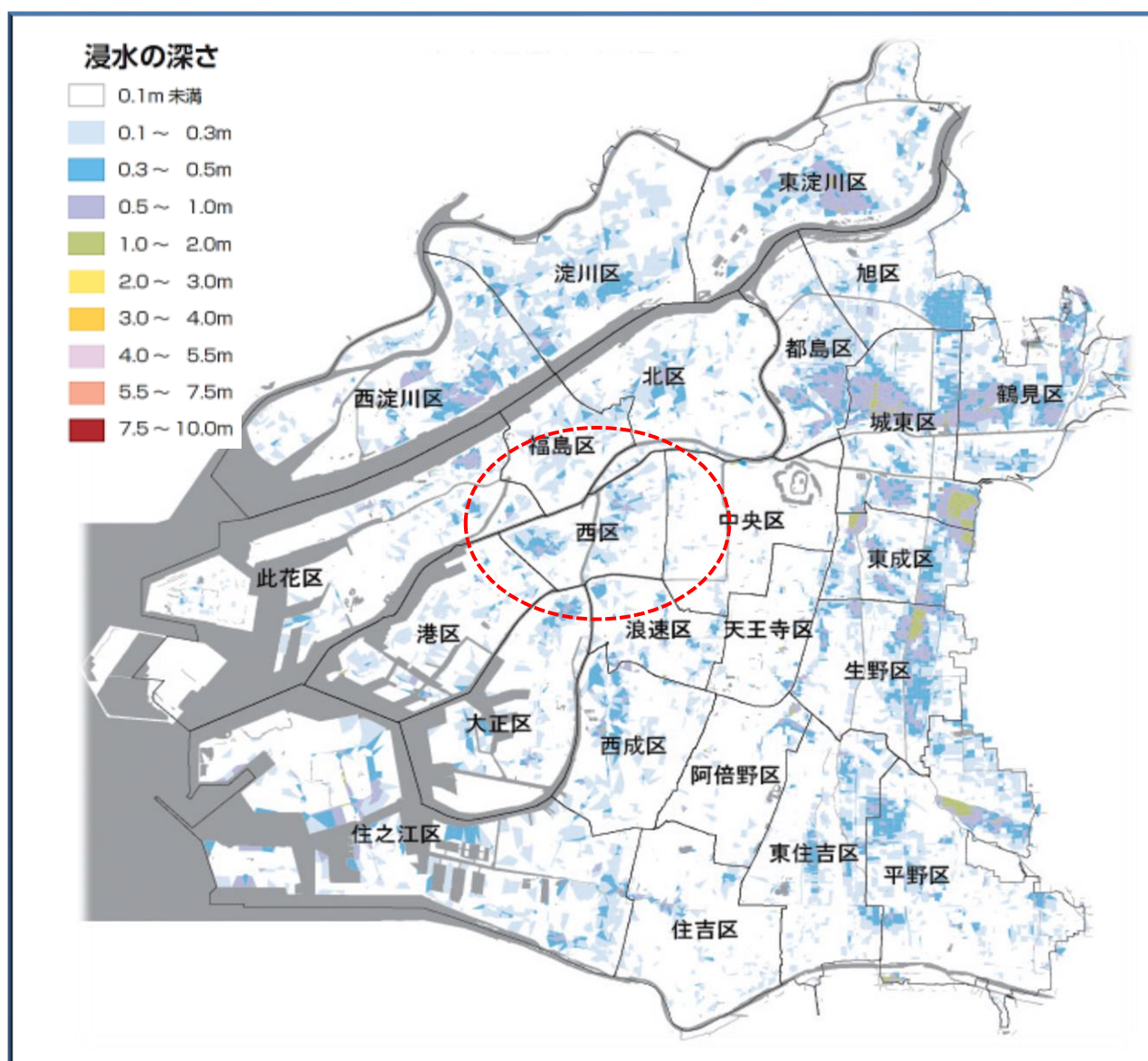
河川氾濫とは、河川水位が堤防よりも高くなったときや、堤防が壊れたときに、河川の水が流れ込む氾濫であり、河川管理者等によって、浸水の想定がされています。

平成 29 年 6 月に淀川の氾濫想定が改定され、西区における淀川氾濫の被害想定がなくなりました。

- 内水氾濫

内水氾濫とは、市街地に降った雨が側溝や下水道、排水路等で排水することができず、その場にたまり浸水すること等によって発生する氾濫です。

西区でも台風や近年のゲリラ豪雨（次項に記載）等により、一部の地域で内水氾濫による浸水が発生しています。



## ・台風・ゲリラ豪雨

台風とは、熱帯や亜熱帯の海上で発生した低気圧（熱帯低気圧）のうち、中心付近の最大風速が17.2m/s以上になったものをいいます。台風は、日本付近に停滞する前線の活動を活発化させ強い風とともに大雨を降らせます。

また、近年、限られた地域で短時間に降るゲリラ豪雨のため浸水被害が多発しています。この集中豪雨をもたらす積乱雲（入道雲）は短時間で急激に発達するため、台風等と異なり予測が非常に困難です。

| 風の強さと想定される被害        |                           | 雨の強さと想定される被害         |                        |
|---------------------|---------------------------|----------------------|------------------------|
| 平均風速 (m/秒)<br>予報用語  | 想定される被害                   | 1時間雨量 (mm)<br>予報用語   | 想定される被害                |
| 10以上～15未満<br>やや強い風  | 傘がさせない                    | 10以上～20未満<br>やや強い雨   | 長く続くときは注意が必要           |
| 15以上～20未満<br>強い風    | 風に向かって<br>歩くことができない       | 20以上～30未満<br>強い雨     | 側溝などから水が<br>あふれることがある  |
| 20以上～25未満<br>非常に強い風 | 車の運転を続けるのは<br>危険な状態となる    | 30以上～50未満<br>激しい雨    | マンホールから水が<br>あふれることがある |
| 25以上～30未満<br>非常に強い風 | 樹木が倒れ始める<br>瓦が飛び始める       | 50以上～80未満<br>非常に激しい雨 | 地下街に雨水が<br>流れ込むことがある   |
| 30以上～<br>猛烈な風       | 屋根が飛ばされるなど、<br>木造住宅が壊れ始める | 80以上～<br>猛烈な雨        | 大規模な災害が<br>発生するおそれ強い   |

## 避難情報の伝達手段

同報系無線（防災スピーカー）・緊急速報メール・ホームページ・ツイッター・おおさか防災ネット・テレビ・ラジオ・地元組織への連絡・広報車 等

（注）同報系無線（防災スピーカー）、広報車については、避難勧告・避難指示のみ使用します。

## 防災スピーカーのサイレン（警報音）パターン

市域に設置している防災スピーカーでは、緊急事態の種類ごとに定めたサイレン（警報音）パターンにより、警報や避難勧告、避難指示等の放送を行います。

| 緊急事態の種類                               | サイレン（警報音）パターン                                     | とっていただく行動                                                                  |
|---------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| ・テロやゲリラ等武力攻撃に関する警報<br>・弾道ミサイル攻撃に関する警報 | サイレン 14 秒吹鳴                                       | 屋内に入り、テレビやラジオをつけ、詳しい状況を確認してください。                                           |
| 大津波警報                                 | サイレン 3 秒吹鳴 2 秒休止 サイレン 3 秒吹鳴 2 秒休止 サイレン 3 秒吹鳴      | 海岸や河川から離れ、津波避難ビル等丈夫な建物の3階以上に避難してください。                                      |
| 津波警報                                  | サイレン 5 秒吹鳴 5 秒休止 サイレン 5 秒吹鳴                       |                                                                            |
| 避難指示                                  | サイレン 15 秒吹鳴 10 秒休止 サイレン 15 秒吹鳴 10 秒休止 サイレン 15 秒吹鳴 | お近くの災害時避難所等、安全な場所に避難してください。                                                |
| 避難勧告                                  | サイレン 10 秒吹鳴 10 秒休止 サイレン 10 秒吹鳴 10 秒休止 サイレン 10 秒吹鳴 | ※河川の氾濫等、避難所に避難するより近くの3階以上の建物に避難することの方が安全な場合があります。普段から身を守る行動について確認しておきましょう。 |
| 緊急地震速報<br>（震度5弱以上）※1                  | 緊急地震速報チャイム音                                       | ただちに身を守る適切な行動をとりましょう。                                                      |

※ 緊急地震速報は、解析や伝達に一定の時間（数秒程度）がかかるため、内陸の浅い場所で地震が発生した場合等において、震源に近い場所への緊急地震速報の提供が強い揺れの到達に間に合わないことがあります。



・特別警報について

特別警報は、「東日本大震災の大津波」や「伊勢湾台風の高潮」等、数十年に一度の大規模な災害が予想される場合に気象庁から発表されます。

**特別警報が発表されたら**

- 尋常でない大雨等が予想されます。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに命を守る行動をとってください。

**非常事態**

大阪市からの避難勧告・避難指示に従いただちに避難所に避難！

外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動！

「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が必要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。

冷静な判断が必要です。周囲の状況に応じた行動を！  
浸水の中の避難は非常に危険！

**POINT**

・特別警報の発表基準

気象

| 現象の種類 | 基 準                                         |               |
|-------|---------------------------------------------|---------------|
| 大雨    | 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合           |               |
| 暴風    | 数十年に一度の強度の台風<br>や同程度の温帯低気圧により               | 暴風が吹くと予想される場合 |
| 高潮    |                                             | 高潮になると予想される場合 |
| 波浪    |                                             | 高波になると予想される場合 |
| 暴風雪   | 数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風雪が吹くと予想される場合 |               |
| 大雪    | 数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合                     |               |

津波、火山、地震

| 現象の種類       | 基 準                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------|
| 津波          | 高いところで3メートルを超える津波が予想される場合<br>(大津波警報を特別警報に位置づける)      |
| 火山噴火        | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合<br>(噴火警報(居住地域)※を特別警報に位置づける) |
| 地震<br>(地震動) | 震度6弱以上の大きさの地震が予想される場合<br>(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける) |

※ 噴火レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「(噴火レベル4または5)を、噴火レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」「(キーワード:居住地域嚴重警戒)を特別警報に位置づけています。」「特別警報の発表基準について」(気象庁ホームページより))

## 2、自助・共助・公助について

○『自助』『共助』『公助』とは・・・

防災における基本理念として、「自助・共助・公助」という言葉がしばしば使われます。

『自助』とは・・・

家庭で日ごろから災害に備えたり、災害時には避難したりする等、自分で守ることをいいます。

『共助』とは・・・

地域の避難行動要支援者の避難に協力したり、地域の方々と消火活動を行う等、周りの人々と助け合うことをいいます。

『公助』とは・・・

市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供等、公的支援のことをいいます。

災害時には、自助・共助・公助が互いに連携・協力することで、被害を最小限にできるとともに、早期の復旧・復興につなげることができます。また、それぞれにおいて日ごろから災害に備えることで、減災につなげることができます。

### 自 助

【市民・事業者等】

自分の身の安全を守るために一人一人が取り組む『自助』

- ・防災知識の習得
- ・食料、飲料水等生活必需物資の備蓄
- ・自主防災組織の結成や参加
- ・防災訓練への参加
- ・事業所における防災・減災計画の作成・実施 等

災害による被害をできるだけ少なくするために、一人一人が自ら取り組む「自助」まずは一人一人が自分の身の安全を守ることが重要です。

### 共 助

【自主防災組織等】

地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む『共助』

- ・自主防災組織における地区防災計画の作成・実施
- ・防災訓練の実施
- ・避難行動要支援者への避難支援
- ・災害資機材・物資の備蓄 等

地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」

地域の方々が協力して災害時等に備え自主防災組織等を形成し共に助け合う関係作りや、避難行動要支援者支援等を行える体制を作りましょう。

### 公 助

【大阪市】

国や地方公共団体等が取り組む『公助』

- ・地域防災計画の推進
- ・業務継続計画の策定
- ・防災知識の啓発や防災情報の提供
- ・自主防災組織への支援
- ・防災訓練の実施
- ・津波、河川氾濫対策や建築物の不燃化対策等のハード対策
- ・災害発生後の速やかな復旧・復興 等

国や地方公共団体等が取り組む「公助」



平成7年1月17日未明に発生した「阪神・淡路大震災」は、甚大な被害をもたらし、私たちに都市直下型地震の恐ろしさをまざまざとみせつけました。

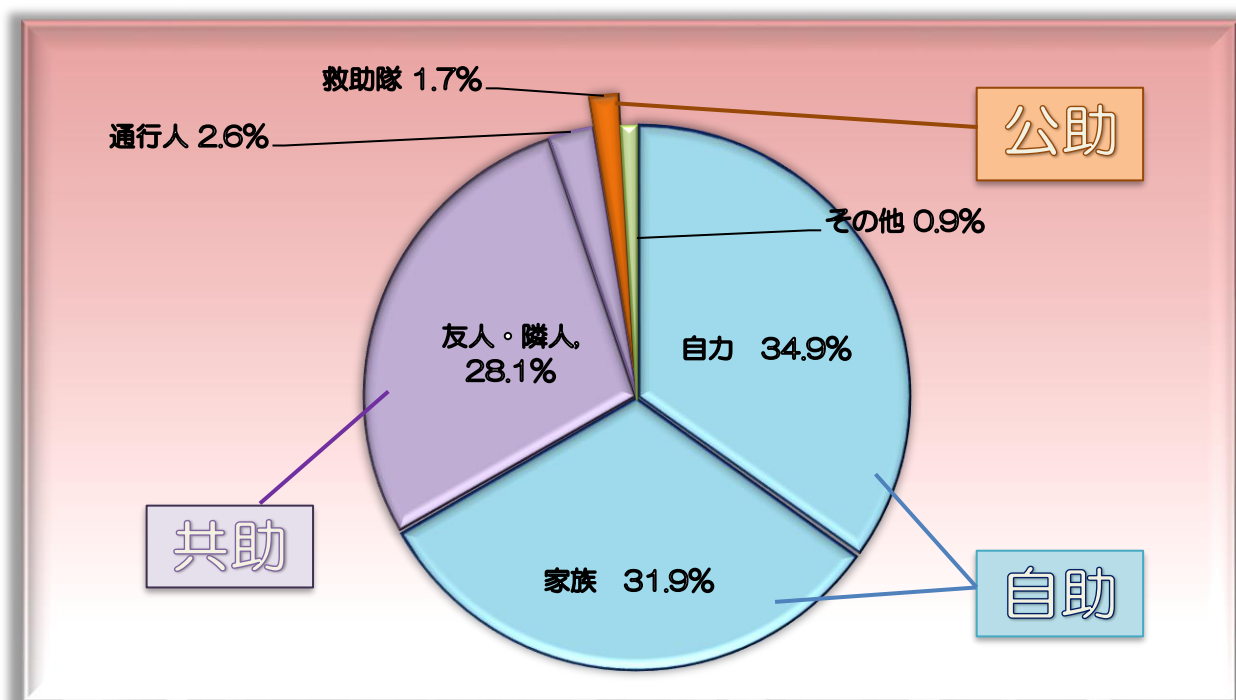
倒壊した家屋等により生き埋めや閉じ込められた人たちが、自力で脱出もしくは、隣近所の人たちが力をあわせて救出し、多くの尊い命が救われました。驚くべきことにその割合は全体の98%とも言われています。

いざというとき、人は生きたいと思う気持ちや、互いに助け合わなければ生きられぬこと、人と人のつながりがいかに大切であるかということを、改めて思い知らされる結果となりました。

## 自助・共助が皆を助ける！



阪神・淡路大震災では98%が自助・共助で助かっている！



### 3、災害への取り組み

#### ○平常時の取り組み

##### 【自助】

災害時に自分自身や家族を守るための対策や備え

#### ①持ち出し品

##### 持ち出し品

##### 基本品目 \*大人2人分の目安

- |               |       |           |       |
|---------------|-------|-----------|-------|
| □非常持ち出し袋      | 1 個   | □缶入り乾パン   | 2 個   |
| □飲料水500ml     | 6 本   | □懐中電灯     | 2 個   |
| □レジャーシート      | 1 枚   | □筆記用具     | 1 セット |
| □ライター         | 2 個   | □携帯ラジオ    | 1 台   |
| □ブランケット       | 2 枚   | □ガムテープ(布) | 1 個   |
| □十徳ナイフ        | 1 本   | □簡易トイレ    | 2 枚～  |
| □タオル          | 4 枚～  | □軍手・手袋    | 2 組   |
| □ポリ袋          | 10 枚  | □生理用品     | 1 セット |
| □毛抜き*         | 1 本   | □消毒液*     | 1 本   |
| □脱脂綿*         | 適量    | □絆創膏*     | 10 枚～ |
| □包帯*          | 2 巻   | □三角巾*     | 2 枚   |
| □ガーゼ(滅菌)*     | 2 枚   | □マスク*     | 2 枚   |
| □常備薬・持病薬等*    | 適量    |           |       |
| □救急袋          | 1 枚   |           |       |
| □トイレットペーパー    | 1 ロール |           |       |
| □ウェットティッシュ    | 2 個   |           |       |
| □現金(公衆電話用の小銭) | 約50枚  |           |       |

\*は救急袋の中に入れておく

新型コロナ禍で追加するもの

- |           |     |         |     |
|-----------|-----|---------|-----|
| □消毒用アルコール | 1 本 | □使い捨て手袋 | 1 箱 |
| □体温計      | 1 本 | □ハンドソープ | 1 本 |
- その他、余裕があれば各家庭にあった持ち出し品を準備しておきましょう。

女性は約10  
kgを目安

男性は約15  
kgを目安



##### 必需品・貴重品

- 車や家の予備鍵
- 予備メガネ・コンタクトレンズ等
- 預金通帳(写し)
- 健康保険証(写し)
- 運転免許証(写し)
- パスポート・外国人登録証(写し)等

##### 赤ちゃん用品

- |        |        |
|--------|--------|
| □粉ミルク  | □紙おむつ  |
| □哺乳瓶   | □母子手帳  |
| □おやつ   | □玩具    |
| □離乳食   | □着替え   |
| □スプーン  | □ベビーカー |
| □洗浄綿   | □おんぶひも |
| □バスタオル | □毛布    |
| □ガーゼ   |        |

##### 高齢者用

- |        |       |
|--------|-------|
| □高齢者手帳 | □オムツ  |
| □着替え   | □持病薬  |
| □予備メガネ | □看護用品 |

リュックサック等両手が自由に動かせるものに準備し、いつでもすぐに持ち出せる場所においておきましょう。家族構成を考え必要最小限に絞り込み、一度背負ってみましょう。また、少なくとも年に1度は点検しましょう。